

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103994		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐阜正法寺		
所在地	岐阜県岐阜市正法寺町9番地		
自己評価作成日	令和7年1月24日	評価結果市町村受理日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103994-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、市の中心に近く、交通の便が良い為、ご家族様の面会があります。又、近くには、薬局、スーパー、コンビニ、理髪店、飲食店もあり、ご利用者様の暮らしやすい環境でもあります。西隣りの済美高校とは、福祉課の生徒の介護実習、花の日レクリエーション、お茶会、文化祭などの交流は深まりつつあります。厚見地域包括とは、包括が主催する、地域ケア会議等に参加し、知見深めケアの実践に結び付けています。又、医師や訪問看護ステーションとの連携を活かし、ご家族様が看取りを望まれた時の為に備えています。今期もお看取りがございました。又、ご家族様の想いに寄り添い、安心して頂けるよう配慮しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナの5類感染症移行後は、中止していた「正法寺祭り」の開催、地元の高校等との地域交流に力を入れている。
運営推進会議や行事等への家族参加を促す事を目的に、家族間の交流機会となることを意識して「正法寺祭り」を開催している。ホームでは、今後も継続して「場をつくること」に力を入れ、取り組んでいきたいと考えている。
地域の高等学校を通じた、福祉科の学生との交流は、生徒の、高齢者・認知症の理解を深めるとともに、卒業後の就職先の候補となり、次世代の福祉職の育成を担っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼時にホーム理念を唱和し、その日の活動目標を表明しており、利用者様の立場に立った支援が実践できるように努めている。	ホーム理念は、「利用者のために」を基本にしている。今期のホーム目標で、利用者の身なりを整えることを掲げ、日々の支援に邁進している。各ユニット目標は職員主導で設定し、利用者中心の生活支援の実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	済美高校との交流を行っている。コロナ禍も明け、実習にきていただく機会があり、レクレーションをしてくださいました。笑顔グループさんと合同で、岐阜正法寺祭りを開催いたしました。	コロナ禍で縮小していた地域行事や交流が、徐々に再開している。今年度は、利用者家族をはじめ、近隣の子供、学生等を招待し、正法寺祭りを開催している。今後も交流機会の拡大を検討している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況・行事・写真を資料として説明し、事故・ヒヤリを報告し、対策について介護保険課や地域包括・ご家族様の指摘や教示を取り入れている。	会議には、利用者家族、地域包括支援センター、行政担当者、調剤薬局の薬剤師等の参加がある。ホームの運営報告の他、相談や情報交換の場として活用している。議事録は全家族に送付し、共有を図っている。	運営推進会議の議題として、目標達成計画の進捗状況等を挙げる等、ホーム運営にかかわる参加者からの意見を求め、外部者の意見を踏まえた、計画の達成に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事故報告などによる対応・改善などのアドバイスを得ている。市や地域包括との連携を図っている。	行政担当部署とは、エリアマネージャーを中心に連携を図っている。生活保護受給者の各手続き等は、ホームが直接福祉課と連携している。地域包括支援センターとは、利用者紹介や入居者の処遇の相談等、日常的な協力関係を構築している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎の身体拘束廃止委員会活動報告の他、2か月毎の身体拘束・虐待に関するホーム内研修により、身体拘束をしないケアの実践に努めている。又、主治医と相談し減薬し自立支援に努めている。	法人の不適切ケアチェックシートを活用し、虐待防止を含めた視点で、日常支援を振り返り、客観的に評価している。職員には、定期的に研修を実施し、ホームには身体拘束をしないケアが浸透している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やホーム内研修で虐待防止の取組を行っている。スタッフ間でも注意を払い虐待が見過ごされる職場環境を作らないように努めている。	不適切ケアの恐れのある場面では、気付いた職員によるフォローや、管理者の指導を行っている。研修には、外国籍の職員にもわかるように、多言語の資料を用意している。習熟度の確認を目的に、研修後には報告書の提出を義務付け、管理者が確認している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名が成年後見人制度を利用されている。研修や実践的に制度の理解を深める努力をしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必ず、契約書、重要事項説明書など一緒に読み合わせを行い、ご理解頂ける様時間をかけて説明している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを実施している。又、運営推進会議等で要望や意見を伺っている。	家族からは、面会時や電話連絡時に、直接意見を聞いている。法人の家族アンケートの実施、本社相談窓口の設置もある。意見や提案は、改善のために検討し、対応している。家族が意見や意向を出しやすいように、毎月、様子がわかる写真や職員のコメントを記載した便りを送付し、情報提供を行っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、法人のスタッフアンケートを実施しスタッフからの意見や提案を聴く為、改善提案BOXを設置している。	職員会議、日常業務の中等で、直接職員の意見を聞き、検討している。ユニット会議では、ユニットリーダーが中心となり、職員意見の集約を行い、必要に応じ、管理者がエリアマネージャーへ相談する仕組みがある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス要件を周知し、スタッフに給与水準を公表し質の向上に努めている。	離職率が低く、令和4年度は、離職ゼロの実績を、法人で表彰されている。希望休や都合に合わせたシフト調整、急な都合による休みに対し、職員間の協力体制があり、働きやすい職場環境であることがうかがえる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットリーダー、ケアマネージャー、事務などの研修、会議はエリア毎に行っている。又、介護福祉士、ケアマネージャー等の資格支援制度があり、去年に引き続き、共にZoomによる講義を行っている。先日は、外部講師をお招きし、ご講義いただきました。	各職位毎にエリア内の他事業所の集まりがあり、意見・情報交換を行っている。法人の資格取得支援制度を活用し、地域の高等学校の福祉科の卒業生が、ホームで働きながら、介護福祉士を取得した実績がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括の主催する地域ケア会議、で同業者同士の交流を図り情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの方の能力に応じて出来る事は、ご本人様にして頂き、出来ない事を支援させて頂いている。利用者様とスタッフが一方的な関係にならないよう寄り添うケアを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自立支援の取組を通じて、夢、希望をお尋ねし、思いや、意向の把握に努めている。	職員は、利用者との日常会話や、日々のかかわりの中で「思い」を汲み取っている。把握した希望を記録に残し、職員間の情報共有と、利用者本人の介護計画への反映に繋げている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からお聞きしたりして、生活歴を作成し、情報共有に努めている。	3ヶ月を定期的に介護計画の見直しを行っている。ケアカンファレンスで、本人意向と家族意向、本人の状況等を検討し、集約した職員意見を併せ、介護計画を立案している。立案した介護計画は、本人と家屋に説明し、同意を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の健康チェックと、朝礼、夕礼で状態を報告し周知を図り、随時、利用者様との状態を把握、共有し、その時々状態に合わせたケアに努めている。 (申し送りノート、薬局との連絡ノート)	記録ソフトで介護記録を作成している。利用者の一日の生活の様子や、支援内容に関する記録は、チェック方式による定型入力他、コメント入力ができるシステムになっている。日々の様子や希望等、自由記述のコメント記載に注力する取組を行っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容について、ご本人様、ご家族様、主治医、理学療法士等の意見を反映させて作成している。	法人所属の理学療法士の月1回の訪問があり、個別機能訓練の指導や助言を受けている。面会時間や、利用者への差し入れに関する家族の希望や要望には、柔軟に対応するように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主治医の往診をお願いしている。また、主治医の紹介状を持って他の医療機関の受診も行っている。当ホームから、状況に応じて移動の受け入れ先のお約束できた施設もあります。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況の変化などには、その都度、対応。ご希望に応じて素早く支援させて頂いている。	ホーム協力医の訪問診療のほか、入居前のかかりつけ医に家族対応で通院することもできる。訪問診療時には、ホームの介護支援専門員が立ち合い、連携を図っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームより、病院へ情報提供を行い、適切な治療が行われるよう努めている。定期的に面会し、担当ナースに接触し、ご利用者様の状態を把握している。又、医師にお目にかかり早期退院依頼をしている。	ホームでの様子を情報提供書にまとめ、入院2、3日後を目途に、面会や電話での状態把握を行っている。退院後の受け入れ準備のために、情報提供書の事前送付や退院前カンファレンスを依頼し、医療機関、家族と話し合い、スムーズな受け入れを行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針を説明し、状態の変化に伴い医師を含め家族と支援の方法の話し合いをしている。看取り対応に際して、職員研修やシフトの考慮など不安軽減に努め利用者様にとって最良の最後が迎ええられるよう取り組んでいる。(お看取りの取り組み)	入居契約時に、本人と家族に、ホームの方針を説明し、同意を得ている。本人と家族の希望に沿い、本人の状態変化の都度、医師を交えて家族と話し合いを重ね、その後の方針を決定している。看取り支援の際には24時間面会、家族の宿泊等を可能にし、家族の気持ちに寄り添っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や緊急時については、マニュアルに基づいて、定期的に訓練を行っている。又、看取りの対応の仕方もマニュアルにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに基づいて、年2回行っている。運営推進会議にて自治会への協力要請や、近隣住民への協力をお願いしている。(自治会の加入継続や笑顔グループとの合同訓練)又、地域でも防災訓練に参加し情報を習得するようにしている。普通救命講習受講いたしました。(マニュアルの定期的な周知・ハザードマップの更新を行っている)	年2回の消防訓練を、1階にある児童施設と合同で実施し、同時にBCPの訓練も行っている。自治会に参加し、会合時には防災に関する協力体制について提案を行っている。	災害発生時の地域との協力体制構築のため、地域の実態を把握し、双方向的な協力体制の構築に向け、自治会等への声掛けや提案等、継続的な取り組みが期待される。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「私たち職員は、ご利用者様はお客様であり、お金を頂いてサービスを提供するプロである」事を全ての職員が自覚し、その為の接遇研修を行っている。	利用者一人ひとりの状況に合わせ、本人を否定をせず、プライドを傷つけないように接している。本人の性格や特性を理解した声掛けの工夫で、本人の「思い」を大切に生活実現を支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者様に選択して頂く場面を積極的に作り、ご希望に沿った支援をさせて頂いている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、メリハリのある生活が望ましい部分では、声掛けで行動を促しますが、それ以外では、自由に個人のペースで生活される事を尊重している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みの把握を行い、その方似合った食事の提供、季節感のある食材を利用し季節を感じて頂ける食事提供を行っている。	調理員を配置し、法人の栄養士が立てた献立に沿い、3食手作りの料理を提供している。季節の行事食やテイクアウト等の特別食を取り入れ、楽しみのある食事を工夫している。節分には、恵方巻きの海苔を卵焼きに替え、食べやすく工夫して提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立メニューを基に、その方に合わせて、食事形態の変更をおこなっている。水分補給については、夏場は1日1500mlを目標に毎日記録に残しスタッフ全員が把握できるようにしている。(ノーティスの導入により、タイムリーに情報共有できています)		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、口腔ケアを行っている。又、週に一度は歯科衛生士による口腔ケア指導を受け、月2回は歯科医の往診がある。	毎食後の口腔ケアや口腔体操を実施し、嚥下機能の維持に努めている。歯科衛生士の週1回の訪問で、口腔ケアや口腔内の状態確認を行い、状態維持に必要な助言をもらっている。また、必要に応じ、歯科医の訪問診療を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立度に応じたケアを行っている。定期的な声掛けや、誘導をケアプランに載せている。夜間オムツの方でも座位が安定して保てる時は、日中の場合、便座に座って頂いている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、出来る限り希望に応じた入浴が出来るように努めている。車椅子利用者様には足湯やマッサージを行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は、午後に居室のベッドで安楽に過ごして頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については専用にファイリングして確認が出来るようにしている。薬局との連絡ノートも活用している。副作用については薬局より詳しい情報を得ている。誤薬が無いよう、「2週間投薬カレンダー」を工夫して使用している。	医師、薬剤師の良好な連携があり、薬に関する相談がしやすい体制になっている。準備から与薬までを複数人で確認し、誤薬防止を図っている。調整可能な薬剤は、多剤投与の影響を考慮し、減薬に取り組んでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や楽しみについては、ご本人様から随時聞き取り、その要望などに対応できるよう努めている。その内容を食事の好き嫌い表に記入し、スタッフ間で情報共有している。	日常生活上の家事や作業は、本人の負担にならない範囲で役割を持ち、自主的に参加できるように支援している。利用者の楽しみ事として、家族外出や嗜好品の差入れ等、家族の協力を仰いでいる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やゴミ捨て、買い物など日常的に外出出来るよう支援している。家族様の協力を得て通院時の外食や自宅へ自宅へ帰宅される機会もある。誕生日には希望を確認した外出支援を行っている。ご家族で旅行を楽しまれた方もみえました。	利用者の外出希望には、様々な場面での希望実現に努めている。敷地内に無花果の木の、実のつく時期にはイチジク狩りを恒例行事にしたり、散歩や買い物、ごみ捨て等、生活活動を楽しみごとに工夫したり、利用者の気分転換や気晴らしに配慮した支援を実践している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の支払いはホームが全て立替払いしている。ほしいものがある利用者様には、近くの薬局などにホームの現金携帯してお連れして購入いただいている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、リモート面会、手紙のやりとりを支援しています。コロナ禍以降、ご面会が増えてきています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度には十分配慮し過ごしやすい環境を提供している。花や果物等を花壇に植え、利用者様と手入れを行い、季節感を感じて頂けるようにしています。	共有空間は、食事をとる空間とくつろぐ空間を分け、生活にメリハリを持たせている。季節の飾りを工夫し、今回視察時に目にするのできた、新年を祝う華やかな折り紙のくす玉と立体的な狛犬は、健康と福の願いを込め、利用者が職員と共に制作している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様と席を近くにしたり、テーブル、ソファの配置を適切な位置に変え、現状で可能な居心地の良い居場所づくりに努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物や、家族様との記念写真等を居室に飾っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等には案内標識を付け分かりやすくしている。又、それでもわからない場合、優しく声掛けし、案内をさせて頂いています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	2170103994		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム岐阜正法寺		
所在地	岐阜県岐阜市正法寺町9番地		
自己評価作成日	令和7年1月24日	評価結果市町村受理日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103994-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	令和7年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、市の中心に近く、交通の便が良い為、ご家族様の面会があります。又、近くには、薬局、スーパー、コンビニ、理髪店、飲食店もあり、ご利用者様の暮らしやすい環境でもあります。西隣りの済美高校とは、福祉課の生徒の介護実習、花の日レクリエーション、お茶会、文化祭などの交流は深まりつつあります。厚見地域包括とは、包括が主催する、地域ケア会議等に参加し、知見深めケアの実践に結び付けています。又、医師や訪問看護ステーションとの連携を活かし、ご家族様が看取りを望まれた時の為に備えています。今期もお看取りがございました。又、ご家族様の想いに寄り添い、安心して頂けるよう配慮しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼時にホーム理念を唱和し、その日の活動目標を表明しており、利用者様の立場に立った支援が実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	済美高校との交流を行っている。コロナ禍も明け、実習にきていただく機会があり、レクレーションをしてくれました。笑顔グループさんと合同で、岐阜正法寺祭りを開催いたしました。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況・行事・写真を資料として説明し、事故・ヒヤリを報告し、対策について介護保険課や地域包括・ご家族様の指摘や教示を取り入れている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事故報告などによる対応・改善などのアドバイスを得ている。市や地域包括との連携を図っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎の身体拘束廃止委員会活動報告の他、2か月毎の身体拘束・虐待に関するホーム内研修により、身体拘束をしないケアの実践に努めている。又、主治医と相談し減薬し自立支援に努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やホーム内研修で虐待防止の取組を行っている。スタッフ間でも注意を払い虐待が見過ごされる職場環境を作らないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名が成年後見人制度を利用されている。研修や実践的に制度の理解を深める努力をしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必ず、契約書、重要事項説明書など一緒に読み合わせを行い、ご理解頂ける様時間をかけて説明している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを実施している。又、運営推進会議等で要望や意見を伺っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、法人のスタッフアンケートを実施しスタッフからの意見や提案を聴く為、改善提案BOXを設置している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス要件を周知し、スタッフに給与水準を公表し質の向上に努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットリーダー、ケアマネージャー、事務などの研修、会議はエリア毎に行っている。又、介護福祉士、ケアマネージャ等の資格支援制度があり、去年に引き続き、共にZoomによる講義を行っている。先日は、外部講師をお招きし、ご講義いただきました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括の主催する地域ケア会議、で同業者同士の交流を図り情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの方の能力に応じて出来る事は、ご本人様にして頂き、出来ない事を支援させて頂いている。利用者様とスタッフが一方的な関係にならないよう寄り添うケアを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自立支援の取組を通じて、夢、希望をお尋ねし、思いや、意向の把握に努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からお聞きしたりして、生活歴を作成し、情報共有に努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の健康チェックと、朝礼、夕礼で状態を報告し周知を図り、随時、利用者様との状態を把握、共有し、その時々々の状態に合わせたケアに努めている。 (申し送りノート、薬局との連絡ノート)		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容について、ご本人様、ご家族様、主治医、理学療法士等の意見を反映させて作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主治医の往診をお願いしている。また、主治医の紹介状を持って他の医療機関の受診も行っている。当ホームから、状況に応じて移動の受け入れ先のお約束できた施設もあります。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況の変化などには、その都度、対応。ご希望に応じて素早く支援させて頂いている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームより、病院へ情報提供を行い、適切な治療が行われるよう努めている。定期的に面会し、担当ナースに接触し、ご利用者様の状態を把握している。又、医師にお目にかかり早期退院依頼をしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針を説明し、状態の変化に伴い医師を含め家族と支援の方法の話し合いをしている。看取り対応に際して、職員研修やシフトの考慮など不安軽減に努め利用者様にとって最良の最後が迎えられよう取り組んでいる。(お看取りの取り組み)		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や緊急時については、マニュアルに基づいて、定期的に訓練を行っている。又、看取りの対応の仕方もマニュアルにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに基づいて、年2回行っている。運営推進会議にて自治会への協力要請や、近隣住民への協力をお願いしている。(自治会の加入継続や笑顔グループとの合同訓練)又、地域でも防災訓練に参加し情報を習得するようにしている。普通救命講習受講いたしました。(マニュアルの定期的な周知・ハザードマップの更新を行っている)		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「私たち職員は、ご利用者様はお客様であり、お金を頂いてサービスを提供するプロである」事を全ての職員が自覚し、その為の接遇研修を行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご利用者様に選択して頂く場面を積極的に作り、ご希望に沿った支援をさせて頂いている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、メリハリのある生活が望ましい部分では、声掛けで行動を促しますが、それ以外では、自由に個人のペースで生活される事を尊重している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みの把握を行い、その方似合った食事の提供、季節感のある食材を利用し季節を感じて頂ける食事提供を行っている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立メニューを基に、その方に合わせて、食事形態の変更をおこなっている。水分補給については、夏場は1日1500mlを目標に毎日記録に残しスタッフ全員が把握できるようにしている。(ノーティスの導入により、タイムリーに情報共有できています)		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、口腔ケアを行っている。又、週に一度は歯科衛生士による口腔ケア指導を受け、月2回は歯科医の往診がある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立度に応じたケアを行っている。定期的な声掛けや、誘導をケアプランに載せている。夜間オムツの方でも座位が安定して保てる時は、日中の場合、便座に座って頂いている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、出来る限り希望に応じた入浴が出来るように努めている。車椅子利用者様には足湯やマッサージを行っています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は、午後に居室のベッドで安楽に過ごして頂いている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については専用にファイリングして確認が出来るようにしている。薬局との連絡ノートも活用している。副作用については薬局より詳しい情報を得ている。誤薬が無いよう、「2週間投薬カレンダー」を工夫して使用している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品や楽しみについては、ご本人様から随時聞き取り、その要望などに対応できるよう努めている。その内容を食事の好き嫌い表に記入し、スタッフ間で情報共有している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やゴミ捨て、買い物など日常的に外出出来るよう支援している。家族様の協力を得て通院時の外食や自宅へ自宅へ帰宅される機会もある。誕生日には希望を確認した外出支援を行っている。ご家族で旅行を楽しまれた方もみえました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の支払いはホームが全て立替払いしている。ほしいものがある利用者様には、近くの薬局などにホームの現金携帯してお連れして購入いただいている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、リモート面会、手紙のやりとりを支援しています。コロナ禍以降、ご面会が増えてきています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度には十分配慮し過ごしやすい環境を提供している。花や果物等を花壇に植え、利用者様と手入れを行い、季節感を感じて頂けるようにしています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様と席を近くにしたり、テーブル、ソファの配置を適切な位置に変え、現状で可能な居心地の良い居場所づくりに努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物や、家族様との記念写真等を居室に飾っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ等には案内標識を付け分かりやすくしている。又、それでもわからない場合、優しく声掛けし、案内をさせて頂いています。		